

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより 10 番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

今回も武雄市の今後の方向性についてということで通告をさせていただいております。中項目として、スポーツ振興について、それと教育、スマイル学習についてということで通告をさせていただいておりますけれども、この任期 8 年の間にですね、武雄というのは知名度は飛躍的に上昇しているというふうに感じており、まだまだ歩みを止めるわけにはいかないというところで、これから質問をさせていただきたいと思います。

今回、スポーツ振興というところで、通告、まず質問に入っていくわけですがけれども、このスポーツ振興、毎回毎回、上田はスポーツばかり言いよるのっていうごたふうで、よく言うていただきますけれども、スポーツ振興、武雄は観光の町でもあり、スポーツには人を動かす力があるというふうに感じており、交流が生まれ、今回ワールドカップでも、近々に迫ってきておりますけれども、愛国心を育み、高齢者の皆さん、それから一般の青年、子どもたちからも、いろんなやりがい生まれ、健康にもつながり、夢を育むというようなところでですね、とにかくスポーツというのは、人を動かす力があると。それをやることによってにぎわいが生まれ、にぎわいの町になることで住みたい町になる。私は、そういうふうで考えており、毎回スポーツ振興について質問をさせていただいております。

それでは早速ですが、今回 3 月、佐賀県内初の取り組みがありました。もう皆さん御存じだと思いますけど、Tポイントレディスゴルフトーナメントですね。3 月の 21 日から 23 日、この武雄で開催をされました。もう、写真をごらんになられていただければわかると思いますけど、ものすごい人が集まっているようでございます。

この Tポイントレディスゴルフトーナメント、3 月 21 日から 23 日まで、若木ゴルフ倶楽部において開催をされました。まず、これについての観客動員、また経済効果について質問をさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部長

○北川営業部長〔登壇〕

Tポイントレディスゴルフについてでございます。3 月の 21 日から 23 日、若木町のゴルフ倶楽部で、日本女子プロゴルフ協会 LPGA の第 3 戦が行われたところでございます。この来場者につきましては、先ほど写真がございましたが、1 万 3,933 人ということで、LPGA 女子プロトーナメント、沖縄から第 6 戦、兵庫まで既にやっておりますけれども、この中では 2 番目に多いギャラリー数であったということでございます。それからテレビ中継の視聴率については、6 戦中で第 1 位と。それから、インターネット中継についてはアクセス 45 カ国。さらにメディアの露出は 1,400 件以上ということでございます。

4月の15日に、主催者側から御挨拶に見えましたけども、佐賀県初の女子プロゴルフトーナメントということでは大成功ではなかったかということで、評価をいただきました。さらに宿泊者を見てみますと、運営関係者の宿泊だけでも300を超えております。さらにこのほかギャラリーとか、あるいはボランティアの皆さんがおいでになっておりますので、市内に限らず、県内の宿泊が非常に多かったというふうに聞いております。（「経済効果は」と呼ぶ者あり）経済効果ということで、先ほど、宿泊者が300以上ということで申し上げまして、これ以上に宿泊がございます。先ほど言いましたのは、運営関係者だけです、500以上の宿泊者がいらっしゃいます。そういったことでの経済効果があったというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

経済効果——その具体的な金額とかは、ないんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部長

○北川営業部長〔登壇〕

核となる数字を積算をしておりますけれども、先ほど言いました宿泊者の方ですね。こうした皆さん方で、大体1泊1万6,000円ぐらいというふうな計算もございますので、それを500でプラス1,000万以上の効果があったかなというふうに把握しております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

経済効果は、基本的に市が出すというのは、ちょっと難しいんですよ。これは広告効果も含めたりするんで、これは、一定の、例えば広告代理店であったりとか——何て書いてあるんだ、ここ——（笑い声）（発言する者あり）はい。なんかね、全体で1億以上の試算って、信じられないですね。（笑い声）だから、これは、第三者のね、広告機関にお願いをして出すというのが、多分一番いいと思うんですね。そこまでのことはしてませんので、必要があったときには、また、したいなというふうに思っております。一応、我々としては全体で1億円以上という試算をしているようです。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

その経済効果、先ほど部長からの答弁であったように、宿泊者の数掛けるの金額という経

済効果もあると思んですけど、やっぱりメディアの露出、インターネットの露出、そういうものの効果というのが、私かなり高いんじゃないかなと思うので、非常に注目されてたわけであって、私も、ちょっとその時期ばたばたしてはですね、全然行けなかったの、そこをまず、ちょっとお伺いしたかったなと思っておりまして、今回質問させていただいております。

今回この3月に若木のほうでTポイントレディスが行われたんですけども、これはですね、ちょっと聞くところによると、来年はどうなっているのかというような話を伺うわけです。何か3年ぐらいあるとやなかととかっていうような話もですね、うわさ話のところ聞くんですけど、これについてはですね、これからどういう予定になっていくのかというのをまずちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、今年の秋に、来年開催のTポイントレディス決まりますので、決まったかどうかというのは、まだこれからだと思うんです。ですので、今回のTポイントレディスの効果であったりとかっていうのを、CCCカルチャ・コンビニエンス・クラブで、精査をした上で、決められるんじゃないかなと思っています。ただそうは言っても、やっぱりまたぜひ見たいという声が市民県民の方々、非常に多いですので、私ができることと言えば、私と正副議長、議運の委員長と、CCCカルチャ・コンビニエンス・クラブの、特にTポイントの担当のところに伺おうかなと思っています。今月でしたっけね。今月ですね。今月末に、僕CCCの増田社長と会いますので、その時にお願いしますと言いたいと思っています。いずれにしても、あらゆる機会を通じて、ぜひ3年のみならず100年くらいやっていただければ、ありがたいなと思っています。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

今回、この若木で行われたTポイント、市民の皆さんからのですね、いろんな御協力、おもてなし、そこら辺もですね、非常にいろんな活動というか、取り組みをしていただいたんじゃないかなと思いますんで、これから秋口に向けての話をされていく中ではですね、ぜひそこら辺もPRを重ねて、ぜひ来年度も実施をお願いしたいと思っています。頑張りたいと思います。

それではですね、続きまして、同じゴルフではございますけど、今度はグラウンドゴルフのほうに移りたいと思います。これは、武雄町民グラウンドゴルフの模様なんですけれども、こちら優勝チームの写真です。このグラウンドゴルフについてですね、市民の皆さんからの

中で、公認コースを求める声があるわけです。公認コース、私まず、公認コースと言われて
ですね、ちょっと、いろいろ調べたところですね、グラウンドゴルフ協会という、この公益
社団法人があるわけです。そこの情報をずっと拾い上げてたら、全国にもいろんな公認コー
スがあるわけでありまして、佐賀県も4カ所ありました。相知、嬉野、鹿島、吉野ヶ里。こ
れのですね、公認コースを、武雄も考えていかんばいかんとやなかろうかと思って、私もず
っと、いろいろ調べよったところですね、いろんな認定の条件がありました。この武雄が今、
いろんな土地の面かれこれ、場所もどうなのかなというところもあって、いろいろ、ちょ
っと考えておったところです。この認定条件の中に一番ネックになるのは、要はこのホールポ
ストですね。それからスタートのこのマット。これが常設されていないといけないとい
うことなんです。てことは、完全に、やっぱり、そのコース専用としてグラウンドゴルフ専用
のコースじゃないといけないということになってくるわけです。となると、今、武雄市内で
もいろんなコースでプレーされている方、たくさんいらっしゃいます。

そういう中でも、そのグラウンドでグラウンドゴルフだけじゃなくて、きょうはグラウン
ドゴルフがあつてのけど、というような流れになってます。ですので、この限られた敷地の中
でのグラウンドゴルフ、どうなんだろうなと思いつつも、でもですね、結局、ここの目
的というか、結局は、観光商材としてもグラウンドゴルフというのが、1つのメニューには
なっているところなんですよ。ですので、ちょっと私もジレンマに陥ったような感
じなんですけれども、これについてですね、武雄市としての考えをどのように持たれている
か答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

例えば、東川登の残土捨て場とかがついでというふうには、新たなところでは考えられないと思
うんです。これやっぱり、財政負担が伴う話にもなりますし、これは豊村議員にもお答えし
ましたけれども、それなんかやるには、市民の負担というふうになって、今あるところ
を活用できないかと思うんです。ですので、例えば、この上田議員さんが出されている白岩
の競技場であったりとか、あるいは、北方町の公園であったりとか、山内町の中央公園であ
ったりとか。そういう4,000平米というのは1つの条件になっていますので、それに該当す
るところで、各町のまちづくり協議会になるのかもしれないし、体協になるかもしれませんが
けれども、そういったところが専用でいいよと言ったところについてはね、それは、我々
としてもありがたい話ですので、予算を投下した上で整備をしていきたいというふうに思っ
ています。

ですので、ぜひね、出身の議員さんの中で話を、まず詰めていただいて、その上でね、絞
った上で行政と協議ができればいいなと。これは、恐らくね、各町の専用場にするとね、各

町の意向を抱えなきゃいけないと思うんですので、それは、ぜひ各議員さんにも一緒になってね、そういう勢いの情勢になればいいなというように思っております。その際には、やっしてくださるところにはね、例えば、外縁は使えるわけですよ、外縁は。ですので、そういう専用と言いながらも、そういうふうにはちゃんとほかでも使えるような仕掛けというの、ちゃんと、やっぱしていく必要があるだろうと思っておりますし、かつ、例えば、シャワーブースであったりとか、それは、これを使わなくてもね、町民の方々が使えるとか、あるいは、トイレであったりとかっていうのは優先的に整備をすることが必要だというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。そうなんですよね。やっぱり、今既存のものをね、うまく活用して、今回これを出すことによって、うちで今しようところは、そいでどがんかならんやろうかという声ですね、上がってくれば一番いい流れになるかなと思って、今回この質問をさせていただきました。

何よりもやっぱりグラウンドゴルフ、人がようけ集まっとですよ。たくさんの方がやっぱり動いて、集まって、出場されてます。スポーツのイベントで、やっぱり簡単にこんなくて集まってくるっていうのは、魅力なのかなというところであります。

続きまして、武雄市文化会館の大ホールが、老朽化によるランニングコストの高騰によりまして、アセットマネジメントの考えから、体育館をあわせた複合体育館の構想が、この議会の場でもいろいろと出てきております。これについてですね、たくさんの方からもお問い合わせをいただきます。これどうなとや、進むとや、進まんとやというような話でですね、まあちょっと今回、画像としては、体育館と大ホールを出しましたけれども、これについて、これから考えとしては、どのようになっているのかをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはたびたび申し上げますけれども、ものすごく文化会館の大ホールも白岩も、もう維持するだけでも莫大なお金がかかるんですね。ですのでこの維持費をかけることよりは、やっぱり新たなものをつくって市民価値を上げるほうがいいだろうと思って。それは多くの議員さんたちも同じ考えだと思うんです。ですので、やっぱり私は大は小を兼ねるという思いから、重点から、白岩体育館と文化会館の大ホールを組み合わせると総合体育館ですよ。そこで例えば、コンサートができる、あるいは成人式だったり、いろんな各町の催し物ができるというふうなものをぜひつくりたいと思っております。

適地については、今、実際どこがいいかなということで内々にその適地を、どこがあるかなということで営業部を中心に今進めています。ですので、これをごらんになっている方々で、5ヘクタールの土地を無償で提供したいということがあればですね、ぜひ私どもに、上田議員を通じてでもね、私どもにお知らせを願いたいというふうに思っております。これは、さすがに今あるところで作るっていうのはちょっと不可能なんですね、5ヘクタールもあるということです。それは、私どもの財政負担もあるんですが、もう早めに場所は決めたいと思っています。というのも、その文化会館の大ホールの跡地の部分に、私も選挙公約で出させてもらいました、キッズライブラリーの設置。駐車場も完全に足りない状況に、今なっていますので、その整備も進める必要があるだろうと思っていますので、早めに場所を決めていきたいなというふうに思っております。

どういう機能が必要か等については、これはよく議会とまた話をしながら進めていきたいと思っていますし、1つやっぱりオリンピックが、何年後でしたっけ、6年後でしたっけ。「6年後」と呼ぶ者あり）6年後に、もう開催されますので、オリンピックの合宿にも使えるように、それは絶対整備をしていきたいというふうに思っております。ですので、いろんな知恵を使いながら、補助金等も使い——なるべくこう市民負担がね、土地代だけすごくかかるとかじゃなくて、やっぱりいいものを財政負担を見ながらつくっていききたいというふうに思っております。これは庁舎に続く大きな話にもなりますので、そういった思いで議会と共にね、ぜひ後生に残るものになりますので、そういう思いで進めてまいりたいなというふうに思っております。

重ねてではありますけど、場所の提供をぜひ、お願いをできればなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

今、非常に嬉しい答弁をいただきました。これがですね、結局この構想が表に出てはきたものの、これからの計画としてどうなっていくというのが非常に興味の、関心が高いところだったんですね。今回、先ほど市長に答弁いただきましたように、そのオリンピックの合宿にも使えるように考えていきたいということであれば、目標の年度といえば、6年後のオリンピックとなると、5年後ぐらいを目標に置かれているのか、そこら辺を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ合宿となると、もう2、3年前から始まってまいりますので、それを逆算すると、これ私の希望ですよ、私の希望にすると、今年度いっぱい場所を決めたいと思っています。

場所を決めずして、これやっぱり、この議論ってできないんですよ。だからまず、場所を決めたいと思っております。できるだけ、アクセスが市民の皆さんたちにとって、そして結構多くの県民の皆さんとか国民の皆さんたちもお使いになるというように思っていますので、そういう意味ではアクセスもきちんと考えた上で、こうしていきたいなというように思っております。ただここにね、恐らくもうこれは、既存の土地が今ありませんので、拓くということになると思うんです。そういったときに、私たちの今の考え方だけ言うとね、そこに運動公園も一緒にというのは多分ないだろうと。運動公園の場所を確保するようだったら、優先順位として駐車場を、やっぱりきちんと設置する必要があるだろうと思っておりますが、これについても議会の広範な意見を賜ればありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

私はですね、この総合文化体育館は、やっぱり利用価値というのがものすごく高くなっていくと思うんですよね。今のこの大ホールと体育館を合体させるわけですから。となると、やっぱりここだけは交通手段が恵まれているところがないと、いろんな不満もまた出てくるんじゃないかなと思うんで、あえてほかのスポーツの競技の施設と一緒にという必要はないと思うんですよ。やっぱり利用されている方が年代もさまざまですし、朝から、しかも室内の競技場ということになれば、夜遅くまでやられている方も結構いらっしゃるんですよ。ですから、これについては私も今話があったようにそういう考えを持っています。できれば交通手段が恵まれているところにね、高齢者から子どもから、たくさんの方が通える。ほかの競技は、もうその競技だけをしに行くので、やっぱりある程度のところまでは移動できるんじゃないかなという考えは、一応持ってはいるんですよ。ですので、場所をまず選定するのが1、2年の話で。

とにかく今回ですね、実はこれ嬉野市の記事なんですけど、オランダの女子野球のですね、ワールドカップのオランダ代表が嬉野でキャンプをされるわけですよ。嬉野の市長さんにも話を聞きに行ったんですけど、佐賀県と一緒に誘致をやったと。話を聞いているとですね、ほかにも同様の取り組みでスポーツ合宿年間3万人以上来ているという話なんです。武雄も何とかそういうのしていかなばいかんと、人を動かす力があるスポーツにやっぱり何としても取り組んでいかんといかんと思うんですけど、今の答弁でかなり前向きに、ああ頑張ろうと、私も頑張ろうと思われている市民の方たくさんいらっしゃると思いますけど、その辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は少なくともね、嬉野がどうだからとかというのはあんまり、ね、だから、これ勝ち負けの話じゃないと思ってるので。嬉野とぜひ補完関係のものをつくりたいなと思ってるんです。やっぱりこう嬉野も栄えて、武雄市もこう栄えてというふうに、ぜひしたいと思いますので。嬉野さんと私どもがよく、連携ができるようにしていきたいなというように思っています。やっぱり仲いいことが一番ですよ。(発言する者あり) はい、もう人間丸くなりました。ですのでそういう意味で少なくともね、オール佐賀県として、しかも佐賀県の西部として、恐らく伊万里さんとか唐津さんも同じになってくると思っていますので、そういう意味ではこう面的な展開もぜひ考えていきたいなと思っております。

その中でね、ぜひやっぱり温泉を活用して、できればこの体育館は、ものすごくいいクラブハウスをぜひつくっていききたいなと、市民が使えるこうクラブハウス。サウナがあったりとか、温泉があったりとか、そこでスポーツだけじゃなくて交流ができるような施設になればいいなと思っておりますし、そのときもぜひね、図書館をCCCでしていただいたように指定管理者という制度を使って、いい前向きな民間の皆さんと一緒に取り組めればいいなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

すみません、私の説明もちよっと不足してました。武雄もやることによってですね、嬉野、そして鹿島、ここら辺との連携が強固になっていくんじゃないかなと思っております、今回この質問をさせていただいたところでございます。

それから次に移りまして、これがですね、武雄が誇る代名詞の1つと言えましょうかね。スポーツ振興に絡めてますので皆さんもすぐおわかりだと思いますけど、競輪ですね。この競輪、やっぱり本場に活気をというのがですね、私も常々考えているところであり、もっともっと本場がにぎわっていかんことにはいかんというところですね、選手会の皆さんも、いかにたくさん本場に来ていただきたいということで、このチャリティーのオークションをやられたりされてます。チャリティーのオークションによる売上金が児童養護施設へ寄贈をされ、くらし部長がやられているところですね。後ろにはこう選手たちがたくさん並んでますけど、子どもたちにもプレゼントを持って行かれております。

そういうふうですね、選手会も一生懸命頑張ってくださいしておりますけれども、今回武雄市で初めてですね、ガールズケイリンの開催がありました。女性のトップアスリートが武雄に来ていただき、武雄で競争がされたわけでございます。これがゴール直前のシーンなのかな。武雄競輪で初めてこのガールズケイリンが開催され、それについてのまず手応えというか、どのように受けとめられているか答弁お願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部長

○北川営業部長〔登壇〕

ガールズケイリンでございますが、本年5月14日から16日まで武雄競輪のホークス杯ということでございましたが、12レース中に2レースをガールズケイリンとして取り組みをいたしました。期待していた売り上げはさほど伸びませんでしたけれども、ガールズレースがあるときには観客がスタンドまで下りてきて、盛んに声をかけていただいておりますということで、非常に盛り上がったということでは聞いております。今後もガールズケイリンについては取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

今回、このガールズケイリンを開催されて、その広報面はどうだったですかね。反省点—反省点っておかしいですね。意外にですね、御存じない方も結構いらっしゃって、うまくPRができてたのかなというところ、ちょっと危惧したところがあつてですね、そこら辺についてはいかがでしょうか。せっかくのガールズケイリンの開催だったと思うんですけども、充足していたのかどうか、そこら辺を。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部長

○北川営業部長〔登壇〕

このガールズケイリンにつきましては、一昨年から取り組みをやっておりまして、全国43場ございますが、今年から9場が取り組みをいたしております。そういうことで、他の施行者とも話をいたしまして、関係のマスコミを使ってですね、ガールズケイリンのPRをしたところでございます。

何よりも男子選手が2,500名ほどいるわけですが、女性につきましては現在69名というふうなことで限られた人数の中での割り振りというふうなことです。12レースありますが、2レース中しかできないという状況もございますので、これについては今後またPRについて工夫をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。ぜひですね、うまくPRをやっていただいて、本場にたくさんの方がお越しいただけるように頑張ってくださいと思います。

競輪場、大分ですね、老朽化が進んでおりまして、今回の議会にも基本設計料が上程されておりますので、そこら辺にはちょっとあんまり触れないようなところで質問を続けさせて

いきますけれども。やっぱりですね、来場者に快適さをつけていうところがないとだめなんじゃないかなと思うわけですね。今回、ちょっと有料席に限って御質問をさせていただきたいと思います。

ちょっと見にくいと思います。特別観覧席が本場開催時は500円で、場外発売時は無料で開放していると。本場が開催されてときの金額から、場外はその半額というふうな金額設定になっておりますけども、ボックス席が1部屋で1万円ですね。S指定席が1席で2,000円というところになっておりまして、特別有料席がコストパフォーマンスを満たしているのかどうかというところを、ちょっと質問をさせていただきたいのですが、まずこれですね。これが特別観覧席、本場開催時は500円、場外時は無料という席ですけども。これはですね、私、もう充足していると、コストパフォーマンスとしては満たしているんじゃないかなとは思うわけですね。それ以外に、このボックス席、本場開催時1万円と。これはこういう席ですね。これは何人で来られても1部屋が1万円ということですね。そういうことですね。お一人様いくらじゃなくて。ここでちょっと注目してもらいたいの、モニターのところもですね、せっかくこのボックス席、有料席に来られて、ちょっとこのモニター寂しかねとは思いましたところではあるとですね。でもこれから、もういろんなITが進んでいく中で、結構ですね私の知り合いで何でもかんでもされてる方がいらっしゃるんですよ。競馬、競輪もちろんですけど、競艇、ボート、そういう、もうパソコンも何台か持ってあって、そういういろんな情報を見ながら駆使されてる方がいらっしゃるんですけど、それに比べると、やっぱりここにもっとクオリティーを上げていかんことには、本場にどうなのかなと。いや、ここも居心地は本当いいんですけどね、居心地はいいんですけど、使い勝手としてどうなんだろうなというところが、ちょっと違和感を感じる部分です。

それからS指定席、本場開催時は2,000円。これを、今度はお1人で来られたり2人とか、数名で来られたりする方が、こちらを利用される方いらっしゃるんじゃないかなと思うんですけど、これもこの小さいモニターが各席にはついてはおるんですけども、ここを利用される方の心境って、まあいろんな心境があるかと思うんですけど、私が伺った話を言えば、朝から来て夕方まできょうは時間があるから、ゆっくりと競輪を楽しみたいという方がこちらに見えられるんですけど、どうしてもこれ、ずるっともう通路になっていて、ものすごく目立つわけですね。だからちょっといづらいついていう話を聞いたりするわけですよ。もうちょっとこう、1日ゆっくり1人で楽しみたいというような方もいらっしゃってですね、これについて、本場へ集客をしていくためには、特別有料席の充実を考えないといけないんじゃないかなと、いろんなやり方あるかと思うんですけども、そこら辺についてのお考えを答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、特別有料席のみならず、もう本当にこう行きたいというか、居心地のよさを最重視して抜本的に変えます。図書館がなぜあれだけ人を引きつけてるかっていうと、やっぱり居心地のよさなんですね。あの図書館で90分から2時間ぐらいいらっしゃるんですよ。そういったことを考えたときに、単にその――まあこれ議員と同じだと思うんですけど、自由席だけ変えてもだめで、全体をこう変えるということが必要。それとやっぱりカフェが必要なんでしょうね、カフェが。そういったことも含めて、うちの図書館といういい参考例がありますし、今度庁舎も居心地のよさを追求しようと思っていますので、そういう形で改修をしていきたいなと思っています。

よく私はあそこの、皆さんたちから見て右のところにいくんですけど、居心地悪いですもんね、なんか。こう、なんかこう圧迫感があつてとか。あれが例えば、木調に変わるだけでも全然違いますし、モニターとかもiPadで十分なんですよ。iPadで。しかもiPadだと持っていけるじゃないですか。持っていける。図書館がそうであるように。ですので高価なものを置く必要なんかは、今もうないんですね。しかも、このソファも座った瞬間に立ちたくなるようなものも使われていますので、そういう意味でいうと、値段でね、ちゃんと我々が本当にこう座りやすい、高くなくていいのって、IKEAとかいっぱいあるじゃないですか。

だから、そういったことも含めてね、我々は、やっぱりこう考えていく必要があるだろうと思っていますし、重ねてでありますけれども、もう入った瞬間から行きたいと、もう1回行きたいよねというような空間にぜひしていきたいなというように思っております。ですべて全体としては少しちっちゃくなるかもしれませんが、リピーターの方々をふやすと。それは単に本場開催のじゃなくて、あの競輪に行ったときには、なんかこう、ずっと1日いれるよねって、今の図書館みたいに、というふうになればいいなというように思っております。場合によっては図書館との連携も考えられるのかなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんですよ。やっぱり有料席かれこれもですね、県外からもここに早う行って、順番とって、ここに入りたいて、そう思われるような席をつくっていかないと。来られたお客さんも、ここは気持ちよかもんねっていうくらいですね、快適さを与えられるように考えていかないといけないんじゃないかなと思っています。ぜひ、あの駐車場がいっぱいになっているのをですね、見ていきたいなと思っています。

続いて、その武雄競輪。これもですね、以前質問させていただきました。武雄市にはこの武雄競輪があります。唐津市には唐津競艇とボートレース唐津があります。鳥栖では佐賀競

馬あるんですけど、この連携をうまくとれんもんかなというのを以前ですね、質問させていただきました。

今回、唐津さんのボートレース唐津さんが、ドリームピットというのを新設されて、舟券のドライブスルーまでやられているそうです。この連携をですね、以前質問させていただいたときに、縦割り行政のことでなかなか現実的には難しいというような話もあったかと思うんですけども。やっぱりここにですね、敷地を武雄市の武雄競輪もボートレース唐津も、鳥栖も、佐賀競馬も敷地はいっぱい、比較的あると思うんですよ。それをですね、この3場が連携をとって、前回の質問では今ある車券販売窓口をこういうことに変えていくって、お互いが連携をとるってことはできないかと質問していたんですけど、敷地内に場外発売場を隣接していくという、そういうやり方だったらいけるんじゃないかなとかって思っておるんですけども、これについての考えを今一度お聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部長

○北川営業部長〔登壇〕

他のボートとか競馬とかとの併売と、コラボということでの御質問かと思えます。以前にもそういう御指摘いただきまして話しておりましたけれども、ここ数年全国的に競輪の売り上げというのは減少をしております。コラボを行った場合に、競輪の売上げが目減りするのではないかなという危惧もしております。実際、若松ボートのところで競輪との併売を実際やっておりますが、ここにおいては競輪の売上げが減少しているという状況が見られます。そういうことで、競馬場や競艇場に衛星のサテライトを設けた場合でも、設立に多額の費用がかかりますし、売り上げ減少の中に利益を生むというためには相当の車券売り上げが必要となってきますので現段階では、ということについては考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

若松と小倉競輪の併売でしょう。あるいは小倉競輪場に、若松の場外が入っとうわけですかね。どうやっているんですか。（「若松ボートに」と呼ぶ者あり）ボート場に競輪。その絡みでも変わってくるんじゃないかなと思うんですよ。要は私これをね、ぜひ考えていけないかというのは、要は武雄競輪に競艇ファン、競馬ファン、皆さんお越しく下さいというような仕組みにつながらないかなと思って、毎回この質問させていただいたとこでございませう。私も今後もずっと調べていきたいと思っております。

続いては教育について入りたいと思っておりますけれども、武雄市初の教育改革ということで今回テーマとしてあげておりますけど、1つ目が、反転授業があります。2つ目に官民一体型の学校というのがあると思えます。先ほどの質問といろいろ重複するところがあるかもわか

りませんけれども、直前のことなのであまり対応ができず、やれるだけやってみたく思いますけど。

この教育改革、新しいことに取り組む際に、やっぱり想定外というのはつきものだと思うんですよね。でも、その想定外を想定内にすることが、我々がいろいろ議論をしていくことの積み重ねでやっていくべきじゃないかというところを考えておるところですが、今回県立高校のタブレットについて、ダウンロードに不具合、36校中34校がそういう不具合が起きているということが新聞報道にも載りました。これを私はですね、想定外やったやろかなというふうにちょっと感じてるところです。アクセスが集中すればその分情報がおりにくくなるというのはあるんじゃないかなと思うんですけど。

武雄市でもまず、今回5月からタブレットの反転授業が具体的に進んでおりますけども、武雄市でも同様のことが当然考えられてるというふうに思いますけれども、これについては武雄市の状況はどうだったんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

現在4月から約2カ月間、小学校に約3,000台のタブレット端末が入っているわけですが、県であったような大きなトラブルはありません。もちろん、想定内ですね、細かい機種のトラブルだったりとかですね、本当に想定内の不具合等がありますけれども、大きなものはないということで、その中では言葉を使うと想定範囲内のトラブルにおさまっているというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

それはですよ、アクセスが集中するというのが、ある程度は見えるわけですよ。それに対する対処方法を準備してたから想定内だったのか、それとも、いろんなやり方をその前の時点で考えていたから、こういうケースは武雄市では起きていないということなのか、そこら辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

おっしゃるとおりで、少し専門的な話になるんですが、情報を取るときにクラウドというインターネット上のところで、みんながアクセスすれば、やはりどう考えたって集中してダウンロードできないというのがありますけれども、今の武雄市の状況で言うと各小学校にサーバーが設置されていますので、子どもたちの端末はそのクラウドに行くのではなくて、ほ

とんどが学校内にあるサーバーとアクセスするという形になっていますので、高校のタブレットのような現状にはならないということを、ここはかなり最初からきっちりと計画していましたので、県のようなことはございませんでした。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

そこは想定をしていたということですね。

それではですね、続いて向かうべき方向はということで、毎回この反転授業の質問するときに使っておるんですけど、反転授業を行うことによって、みんながこういうふうに学力アップを目指しておりますということです。これ、一番最初の質問では、私はこういうばらつきが出てくるんじゃないのと、この反転授業を進めていけば、ということをおっしゃってんですけど、いや違うと。答弁でも、いや、こっちなんですよと。こっちを目指しているんですよという話です。

それを、最も期待している効果の1つということでCラーニング機能を考えれば、それが納得したわけですね。それが、要はこの端末を使ったCラーニング機能ですけど、これもですね、以前の質問に使った映像でありますけど、授業を受けて小テストを実施して、授業終わったら採点と、これまでの学習では実施されていきました。そこでこのつまずきが出たときにどうなるのかというところで、やっぱり翌日以降の授業でということになります。となると、翌日以降の授業となると、既に次の内容に進んでおるわけでありまして、なかなか、つまずきをそのままの状態ですべて終わってしまうんじゃないかと。ただ今回、端末を使う、Cラーニング機能を使うことによって、基本スタイルとしては、これ前回の質問ではちょっと中身が若干違うということでしたけど、それに伴っていくと、まず反転授業で予習をします。それから小テストを実施して、授業を受ける、授業を行う。グループワーキングということで授業になるのかなと。それから小テストを実施。こちら辺でタブレットをうまく使っていくということになっていくのかなと思いますけど、反転授業の予習の分は、再生の回数や再生スピード等で、この子がどういう状況でこの反転授業の映像を再生したのかっていうところもチェックできるはずじゃないかなと思うんですよ、タブレットを使うことによって。小テストを実施することで実際の反転授業の予習の理解度がある程度ここで見えてくるんじゃないかなと。さらに授業を受けていく上で、TT等によるほかの先生方とのフォローもできていく。それから、小テストを実施して、これがCラーニングで瞬時に先生の端末に情報が送られてくるので、理解度によっての、また集中指導というのにつながっていくのじゃないかなと思うんですけど、これについての、今一度、ずっと重ねてきておりますけど、これである程度私の認識が間違っているかどうか、改めてもう1回答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

（モニター使用）今、上田議員がおっしゃっていただいた、大きな流れはそのとおりじゃないかなというふうに思っています。繰り返しますと、従来の勉強というのは、先生がわかったかなというところまでやるのですが、実は3分の1ぐらいはよくわかってないわけですね。そのまま、じゃあ復習しなさいと言っても、3分の1の子どもたちはわからないまま復習しているので、もっともっとわからないという現状がありました。じゃあ、その考え方をやめて、知識の習得は家でやってきてみようということをまず前提で動画でやっています。当然、中にはわからない子たちがいると。そのわからない子たちは、授業で教え合ったり学び合ったり、そして先生がよりそのわからない子に的確に指導できるというコンセプトですけども、上田議員言ったように、より具体的にどんなことをやっているかということですね、ちょっと御説明したいなというふうに思います。

子どもたちはですね、このCラーニングという小テストを予習が終わった後に1回、そして授業が終わった後にも1回行います。ですので、小テストをやって、練習問題を解きます。従来ですと、先生はこの採点ですね、を休み時間にやらないといけなかったのですが、先生は子どもたちの全員の結果を瞬時で自分のタブレットでわかる。児童の解答状況をその場で確認できますので、この中で一生懸命教えたときに、まだ3人わからなかった、4人わからなかったということがこういうグラフでわかります。もちろんこれは個人名もわかるようなシステムになっていますので、授業の終わりに、誰がわからなかったかをしっかり把握して、もし仮に授業中でわからなかったら、さらに放課後学習するとかですね。決して家に帰ったときに、わからない状態のまま帰さないということが可能になっているという意味で、従来の一斉型からより学び合い、教え合いをすることによって教え合うほうも伸びるということで、先ほどもあったように、上の人だけじゃなくて全員が伸びていくというような授業手法がこの武雄式スマイル学習だというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

なるほどですね。これが一番の反転授業の、私は最大の魅力だと感じているところなんですよね。これがタブレットがないと、またできない機能じゃないかなというところですね、ここら辺はぜひ今後頑張っていっていただきたいなと思っております。

先ほどあったですね——ちょっとモニターを変えてもらってよろしいでしょうか。特に私は中学生の保護者でもあるし、小学生の保護者でもあるんで、よく耳にするのがですね、つまりまずきですよ、先ほども出した。そのつまりきをそのままにした結果、その後の授業、要はそこでわかつたらんのその次の段階の授業に行ったけんで、わからんというところで。ず

っと突き止めていったら、結局ここでつまずいといったのかというところがあるわけですよ。そこを改めて理解をすればその先がわかってくるので、また好循環をしている子もいるようです。そういう中ですね、この反転授業の効果、Cラーニングでつまずきを、まずそのままにしないというのが最大の効果だと思うんですけど、それにプラスしてですね――中学導入が来春の予定ですよ、それは変わってないですよ。その受験対策、これからの中学生の子どもたちにとって、自分がどこでつまずいたかっていうところが、改めてその反転授業としてそのタブレットに、例えば自分は1年生の数学でちょっとつまずいたところがあると。それを受験対策ではないですけど、その本人の今後の勉強のところ、そこからもう1回タブレットを使ってですね、やっていくということが準備としてできるものなのか、私はそれやっていくべきじゃないかなと思いますけど、そこら辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

まさにそのとおりだと。そして、それが可能になるのがタブレット端末を導入することによってできると思います。中学校の導入は来春の予定をしておりますが、今、中学生でよく耳にするというのがありましたけれども、大体中学生でつまずいているというのは、小学校4年くらいからなんですよ。現実的には、中学校の先生に小学校4年まで戻って学習させるというのは、なかなか物理的には難しいというのが現状です。じゃあどうするのか、その子を見捨てるのか、いやいや、武雄の中では一人ひとりが学べて、自分の自由な時間、自由な場所で振り返って、あ、僕はこの100の繰り上がりがうまくできてなかったんだとか、1億の数がよくわかっていなかったんだと、こういうところまできっちりとかのぼれる。今は、コンピュータがあれば自分の弱点をちゃんとさかのぼれるような設計になっています。これはどうしても全体ではできないので、1人1台のタブレットが導入されることによってですね、個々人の弱点を把握し、それは結果的に受験対策にもなるというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんです。大体ですね、つまずきで苦しんでいる子どもがたくさんいるわけで、そのつまずきをちゃんと理解してやれば、その先もちゃんといけるんですよ。ですので、ぜひ今後、中学導入については、もうこれから小学校の導入についてもそうですけど、ぜひですね、そこら辺うまく活用していただきたいなと思っております。

続いて官民一体型の学校の創設についてであります。もうたくさん新聞記事が、連日のように武雄の官民一体型のことが載っています。花まる学習会との連携ということですね、たくさんあるんですけども。高濱代表、花まる学習会の高濱さんですね。この人が、これ

は以前ですね、図書館なんです。花まる学習会の高濱先生、2013年7月23日に図書館に講演に来ていただいたとき、私行ってたんですよ、その講演に。そのときに「親だからできること」という題目で講演をされています。そのときに私が聞いていろいろメモをしているところがですよ、お母さんがにこにこなら子は育つとか、なるほどなというところがいろんなところであったわけですよ。教育とはたった1人のパートナーを幸せにする教育とか、この国の最大の問題は母のイライラ、娘にとって母は最高のカウンセラーですよ、とかそういう話を、いろいろされてたのをメモを取ってたんですけど、そこで私が一番頭に残っている言葉というのが、受験戦争で勝ち抜く子どもを育てるべきってそれも確かに大事かもわからん。でも、社会で勝ち抜く子どもを育てるのが、これから私たちがやって考えていかんばいかんことだよというところをですね、講演をされたところです。

それで、先ほどの質問でも一緒ですけど、私も視察に行ってみりました。先ほどの画像とも似ておりますけど、これですね、見てください。頭にこう、キューブの箱を乗せてるんですよ。何でかという、静かにしなさい、まあこのときはがやがやしてたので、静かにしなさいと言われると思うと、そうじゃないんですよ。みんなこうやってってということになると自然と静かになっていくわけですよ。で、頭の上にかんしてのせとうもんやけんが、動いたらまた落ちるけんですね。それで、だんだん静かになっていって、はいみんなそろったということで、はいじゃあスタートということでキューブを片付け出すと。そのときはみんな一斉に自分のタイムと競争してというような感じになっていました。実際は、先ほどの質問でもありましたけど、テレビでは元気いっぱいなところ、がんがん話をするところというのが授業で、報道では放映されてましたけど、このように静かにですね、音読をしたりとかというときもあります。一番私が感じたところがですね、これは1つ、私の感じた個人的な見解なんですけど、一つ一つの動作に意味があると。

その花まる学習会、先ほどこういうふうな頭に、額にこうやられてました。それから問題を出されるときは、わざわざですね、開けごまというようなかけ声をかけさせて問題をみんながそれに集中するようにぼんと出して、それをぱっと隠したらそれを子どもは頭にインプットして、一生懸命やっていくわけですよ。

それから子どもたちに達成感、充実感というのを与えられる。これはですね、その授業が始まる前の話なんですけど、宿題をしていない子がいました。花まるに通ってる子どもで。じゃあどうするのかなって思って普通にいたら、今からまだ授業が始まるまで何分あるよって。だからここまではできるんじゃないって言ってさせよんさったですもんね。結局その時間内に終わるものを、宿題ここまではできるよってなったら、したらもうとにかく、よくやった、できたやん、さすがやんっていうような感じで、もうとにかく褒めて伸ばす。

教室の、先ほどの机の上に、決まったものしか置かないという指導をされてるんですよ。そこに1人だけ物が置いてないものがあるって、問題集とノートっていうふうに例えばあった

のが、みんなそれだけをテーブルに置くのが、例えば1人だけ問題集だけが出てなかった。じゃあ、問題集を出してというのも20秒あれば出せるってということで、先生も、すぐ20数カウントを数え出すわけですよ。20、19、18ってずっと数えながら、子どもはもう20秒以内にださなきゃいかんとばたぐるいして、かばんの中を見ながらしよったわけです。でも20秒このままいくと、無理だなんていうところで、だんだん先生もそこをカウントをだんだん間延びしていきよったわけですよ。最後にやっと問題集が見つかって、机に置いた瞬間にゼロで。すごい、なるほどなって。結局私は、徹底的に褒めて伸ばす教育。私はその花まる学習会を見て一番感じたのはこれですもんね。

ここら辺について、花まる学習会、私が見た見解はこうなんですけど、ここら辺はどうなんでしょうかね。市、当局の考えをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

わずか1回の視察で、かなり本質的なところまで解釈されてるんじゃないかというふうに思いました。繰り返し、私どもで説明させていただいているのは、花まる学習会と提携するにあたってですね、単なる受験指導ではないわけですね。受験をクリアして大学行って、じゃあ、いい子どもたちがいっぱい世の中にいるかという、まだまだその次、本当はやっぱり社会で自立し貢献していく人間をつくりたいというビジョンのもと、カリキュラムに落としているという部分で言うと、自己肯定感、自分が自信を持てるとか、一つ一つの動作が単なる受験ではなくてですね、生きるために、これから自立するために、言葉で言うと、メンが食える大人になるためにどういう教育をするか、ここはすごく徹底しているかなというふうに思っています。

ですので、その中でいうと、学校教育のない、いろんなやり方とか手法に関しては、参考になるところがいっぱいあるなというふうに、教育関係者が見ても思うんじゃないかなというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

まさに褒めて伸ばすって、これは勉強に限らずですね、社会体育とか、そういったものにもこれ十分通用する手法だと思うんですよ。やっぱり、その競技、とにかく大好きになれば、あとは勝手に自分でも努力をしていくし、練習を積み重ねていくって、そこら辺がものすごくですね、共感できるものがあつたわけですよ。

ちょっといろいろ私も調べてみました。IQ、インテリジェンス——何て読むかわからんですけど、要は知能検査の結果を数値で表したものですよね。IQテスト、知能検査の結果

を数値で表したものはIQって呼ぶじゃないですか。

一方で、IQやなくてPQ。これ何て読むかわからんけん読まんですけど、勝手に読んでください。このPQというのが、脳の前頭前野がもたらす、人を人たらしめる意識や知性、知能、感情制御、社会性をもたらす機能の総称。だから今回のこの花まる学習会というのは、IQよりもPQを何ていうかこう、強化していくというような教育になっていくのかなど。どちらかといえば、メシが食えるという考えでいけば、こっちのほうを重視した格好になるんじゃないかなど。

いろいろ調べたらですね、PQのもういっちょこのHQというのがあるですよ。HQというのが、PQの中の潜在能力指数が2005年に改称されてHQ。要はこれも、PQの中の一部なんだと思うんですよ。HQの発達というのは、8歳がピークだと。高める方法には、読書、計算、会話、豊かな人間関係、遊び等が指摘されているって。なんか花まるのあいようとと全く一緒にゃーと思いつつですね、自分の中で調べよったところであります。

つまり、人間の脳の、この前頭前野——この前のほうのここがですね、PQであり、HQを高めていくものだっていうふうに、なんかウィキペディアとかいろいろそういうインターネット情報ですけど、そういうことが載ってました。実行機能とされ、対立する考えを区別する能力とか、現在の行動によってどのような未来の結果が生じるかを決定する能力で、確定したゴールへの行動とか、成果の予測、行動に基づく期待、社会的なコントロールに關係しているのが、ここが重点的にやっていくのが、こういうことになっていくということですけど、ここら辺について、代田教育監の考えもお伺いしたいんですけど、教育長の考えもお伺いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。こういう認識で、おい間違うとらんどですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

花まる学習会との連携で求めている成果というのはたくさんあるわけですけども、今おっしゃっていただいたことで、先ほどから教育監が申している、いわゆる受験とか進学とかというのはやっぱりきちんと線を描いているということが御理解いただけるだろうなというふうに思います。

結局、私も長年こう教育界に席を置いていて、確かにそういう面、子どもを本当に、将来メシが食える、生きていける——言葉としては、生き抜く力とか言いながら、そしたら実際に学校でどういうことをしてるかということを考えますとですね、改めてそこから学校の1時間の授業、子どもへの言葉かけも変わってくると。

そういう意味で、先生方が大変じゃないかというふうな言い方もありますけれども、そうではなくて、先生方もさらに広く深く考えていただいて子どもに接していただけると。そう

いう面で、両者でつくり上げていくという先ほどのお話につながってくるかと思えます。おっしゃるとおりだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

やっぱりそうなんですよね。今後、やっぱり生きていく、メシを食えるって考えたときの部分、なかなか花まるのことを視察したあとに、自分でこう調べていくと、なかなか理にかなったようにやーと思うところが多々あってですね、そこら辺をちょっと今回質問をさせていただいたわけでございます。

今後の進め方として、これも先ほどパワーポイントのつくり方まで、なんか同じような感じでありますけど、武内小学校をモデル校として今後準備をしていきますよと。今月より希望により説明会を実施。さらに実施されているところもあるようです。10月より公開授業という形で、花まるの公開授業を実施していきたいということだったと思えますけど、区長会によって手挙げ方式。私はですね、区長会による手挙げ方式っていうのが新聞記事のほうにちょっと載ったものですから、そこ大丈夫やろかと思っておりました。

しかし先ほどの答弁の中で、選定委員会委員長を区長会長、もしくはそれに準ずる区長さんに座っていただいて、校長先生を副会長、PTAからも入り、地域の方も入っていただいて、多種多様な議論の中で、手挙げ方式をやっていくということでありましたけど、そこら辺、改めて答弁をいただきたいなと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

どこか決めなきゃいけないんで、決める主体があって、これも一長一短あると思うんですよ。あると思うんですが、極力その短をなくすためにはどうすればいいかなといったときに、まず最初にまちづくり協議会っていうのを考えたんですけど、これは結構、町によって濃淡があるということがある。それと、いろんな団体、地域、学校が決めるということも考えたんですよ。しかし、学校が決めたときに、青空教室とかをね、いろんなことを考えたときに、学校単独でこれ決められるのかといったときに、議会と相談して、区長会がいいんじゃないかという提案を議会からいただきましたので、その議会の御希望にのっとって区長会としたんですが、そうは言っても、先ほど上田議員さんからありましたように、いろんな不安定要素はあるということから、区長会長ないしは区長会長に準ずる方が、その選定委員会の委員長になっていただき、副会長を現場の校長先生になっていただき、当該学区の区長さんは全員入っていただいた上に、PTAの皆さん、あるいは婦人会であったりとか、老人会であったりとか、地域の皆さんたちが、こう入っていただくということで、合議によって決めて

いただくということ。

その中で、これはちょっと私どもとしても、やり方はよく考えなきゃいけないと思っておりますけれども、学校の校長先生、いわゆる学校の意見というのがあると思うんですね。これは教員の意見って言ったほうがいいのかもしれませんが、教員の意見だったり、あるいは地域の意見だったり、保護者の意見というのは、これはヒアリングでね、よく忌憚なく話し合ってもらおうということも思っています。そういう要綱を、これも議会とよく相談をした上で、6月議会の終了後に公布をしていきたいというように思っております。その中で、ぜひその中で全員とはいきませんが、今、長野県の小学校で実際行われているところの見学であったりとか、そういったものもぜひね、この選定委員会の中からお越しいただいて、これはぜひ議員さんと我々行政府も一緒に行ければいいなというふうに思っております。移動中にもいろんなお話が多分できようかと思っておりますので。

そういう意味で、いろんなレベルです、これは考えていただくこと、あるいは議論していただくこと、これ大事だと思っておりますので、そういう機会を積極的につくろうと思っております。いずれにしても、武内小学校がモデル校だからといって武内小学校が自動的に選定されることはありません。ぜひ、地域の皆さんたちの幅広い希望によって、最終的には教育長を中心とする委員会の中で、多くて3つだと思っておりますけれども。しかし、その3つ選ぶからといってね、2つになるかもしれませんが、じゃあ、この契約の10年間ないかって、そんなことはないと思っております。それは例えば、準備を整えば次年度だったり、次々年度だったりすると思っておりますので、そういったことも含めてよく制度設計をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

要綱も、これから制度設計をつくっていくということですが、ただ来年の4月より本格的に実施していくというのは決まっているわけですよ。てなれば制度のところですよ、あらかじめスケジュール的なものがずっと積まれていくんだと思っておりますけど、実際、我々はPTA側のほうでもあるわけですので、これがスケジュール的にどういうふうになっていくのかなんですけど、最終的に手挙げの方式を、その言って挙げてもらう期限というか、スケジュール。4月に実施するんだったら当然その前になるかと思っておりますが、そこら辺、ざらっとしたもので構わないので、どうか答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

ちょっとお待ちください。スライドを用意します。

(モニター使用) ざくっとした大ざっぱなスケジュールになりますが、大まかにはこのような形で行いたいというふうに思います。

中心になるのはですね、上から4番目の7月の中旬、まず選定委員会をつくること。その中でですね、どんな基準で選んでいくのか。このまず1つが、ターニングポイントというか、ポイントになるかなというふうに思います。

そして8月、9月。武内小学校の中ではどんなプログラムにしていくのかということの研究しながら、10月の中旬には公開授業始まっていきます。やっぱりその授業を見ないと、応募するにも、手を挙げるにも、最終的な結論が出ないと思いますので、10月中旬からその募集を開始し、11月の中旬までには、その実施校を決定するというような大きなスケジュールで考えています。その実施校が決定して以降、全国でその公募を募っていきたくと。大ざっぱな計画ですが、こんなタイムラインを考えています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれは補足する必要があると思います。これは、各町区長会への説明会ってあるんですけども、各町区長会ということよりも、私が、豊村議員さん、そして上田議員さんに説明したとおり、区長会を中心とする選定委員会が、希望する委員会になると思いますので、その説明前には要綱、定員だとか、いろんな要綱を踏まえた上で、それをつくってくださったところに、我々は説明会に行くという段取りになろうかと思います。実際に決めていただくところに説明会をしていくということになろうかと思います。

その一方で、ぜひ議員さんたちにはお願いをしたいのは、各地域で市政報告会とかあられるときはね、ぜひ官民一体校、今、浦議員さんとか猪村議員さんとかからも希望が来ていますけれども、ぜひ幅広くその地区の皆さんたちに説明会をしていただいたときに、私どものほうでも必ず参りたいと思っておりますので、ぜひ一度、議員活動の一環としてもね、説明会はぜひ行ってほしいなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、いろんな説明会を通じることによって、先ほど、代田教育監からもありましたように、実際決める委員会を設置して、基準等というのは7月中旬というふうに協議開始して考えていますけれども、7月下旬までには基準を打ち出したいというふうに思っています。その前に、議会によく相談をしたいと思っておりますので、一応こういうタイムスケジュールで参っていきますので、御協力のほどよろしくお願ひしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。7月下旬には基準が策定をされると。その基準をもとに、区長会長を筆頭にした各地域の、これと言えば、この各町各種団体ということが、それを指すわけですかね。ということで、7月下旬に基準ができ、それを示されると。8月、9月、10月、まあ3カ月ぐらいで、そこら辺で各種団体が協議をして、考えていってほしいということの流れでよかわけですかね。それと、この希望者の全国公募という、これどがん意味ですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはちょっと説明が落ちておりました、申しわけありません。

この希望者の全国公募というのは、全国で、既に武雄に移り住んで、この官民一体学校の授業を受けたいと思っておられる方々もいらっしゃいますので、そういう意味の希望者です。もうこれは、移住してもらわないといけないということになりますので、これはやっぱり11月上旬に、ちょっと早めにはなりますけれども、引っ越し等のことを考えたときに、これが我々としての最速のスピードかなと思って公募したいと。いずれにしても学校を決定しないとけないということになりますので、その新年度の実施校の決定と同時に、希望者の全国公募を開始するというようになります。

そこで今私どもが悩んでいるのは、校区限定にするのか、少し校区を柔軟にするのかというのは、今非常に悩んでいます。例えば過疎地域、過疎の進んだ地域でやったとするじゃないですか、小学校をやったときに。住まいがないわけですよね、住まいが。それが果たして農村留学で足り得るのかとか、いろいろありますので、そこは柔軟にする必要があるのではないかなというのを、今、教育委員会と私どもで、今議論をしていますので、これも含めて夏ごろには、よく議会と調整を、相談をさせていただきたいと思っています。

そうなったときに、校区全般の見直しにも波及する話にもなりますので、それでいいのか、それでだめなのかというのは、ぜひ議会に御議論を賜ればありがたいと、このように思っていますし、ぜひ、それは行く行くの一般質問でもね、取り上げていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

その校区の件も、この7月下旬に出される基準のところには明記される予定なんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、できればそのつもりではいるんですけど、ここはちょっと、やっぱり結構難しいか

もしれないですね。今まで、その校区というのが、明治以来の校区というふうになって、これはもうある意味、武雄を形づくってきたことになるので、少なくとも——要はですね、例えば、今いる子たちがそれを飛び越えてっていうのは僕はないと思っているんです。それはないと思っている。しかし、よそから、武雄市外から移り住んできた方が、校区を柔軟にとというのはあり得る話だと思っている、それがだめだという意見も当然あるかと思うんですね。ですので、私は教育委員会に対してはね、そこも含めてちょっと急ぐことになりすけれど、大事なところですので詰めてほしいなど。その前に議会に、またよく相談をしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。

以上で、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、10 番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、1 時 20 分まで休憩をいたします。